



万葉の里さんぽみち

ご近所同士のつながりを ~支え合い総会~

8月21日(火)、平林会館で大衡村社会福祉協議会の協力のもと、支え合い総会を開催しました。第1部は、ご近所福祉クリエーション主宰ご近所福祉クリエーター酒井保先生の楽しく軽快なお話で、健康長寿のポイントは「社会性を維持すること」「運動すること」「肉料理を食べること」、日常のご近所同士のつながりを保つことやお互いに関心を持つことがもっとも重要であることを学びました。第2部は、「いくつになっても支えあう仲良し会」や「健康づくりにつながる会」などの方々が支え合い活動の報告を行い、和やかに過ごしました。



劇おもしろかったね 巡回小劇場

9月12日(水)、村民体育館で小学生を対象に巡回小劇場が行われ、演劇集団「遊玄社」による「イソップランドの動物たち」を鑑賞しました。子どもたちは、劇中に劇団員の投げかけに答えたり、突然参加する場面にも物怖じすることなく喜んで演じたりし、自然や動物を通した物語を楽しんでいました。



大衡村民野球大会開催

9月16日(日)、村スポーツ協会主催の第48回村民野球大会が楽天イーグルス大衡球場で開催されました。秋晴れの絶好のグランドコンディションのなか3チームの強豪が白熱した試合を展開しました。

- ◆優勝 チーム守
- ◆準優勝 大衡村役場
- ◆第3位 大衡ときわ



▲優勝したチーム守の皆さん

大衡村の歴史

今月号から来年3月号までの月毎に、大衡村の古代から現代までの各時代の主な歴史事項の概要について紹介します。

『亀岡遺跡』 (幻の古代「富田郡」郡衙跡)

多賀城市の特別史跡多賀城跡附属多賀城廃寺跡の発掘調査で出土した指描き文字瓦に、「富田」「新田」「小田」等の文字が見られます。これは、古代律令制度下の陸奥国黒川郡以北に置かれた「富田郡」「新田郡」「小田郡」を意味しており、官寺である国衙(国の役所)の寺の建立に当たって、辺境諸郡への税負担を示すもので、奈良時代前半のものと考えられます。

六国史の一つ『日本後記』の延暦8年(西暦789年)の条に、陸奥国の行政区画として「富田郡」「色麻郡」「加美郡」「黒川郡」など十カ郡の記載があります。しかし、黒川郡以北は蝦夷と雑居しているような所であったので、黒川郡以南とは異なり、「富田郡」も「黒

川郡」も特別区域的な行政区画でした。延暦18年(799年)の条には、行政改革があったものと見られ陸奥国の「富田郡」を廃止して、「色麻郡」に合併することが規定され、「富田郡」は消滅して「色麻郡」に編入されたことになりました。

ところで、『新日本紀』に記載されている特令法施行に際して挙げられている郡名は、宮城県の一部から半月形に北上して「黒川郡」までの記載となっています。「幻の富田郡」の位置は、「色麻郡」の南東部及び「黒川郡」の北西部の一円が考えられ、この位置は現在の黒川郡が占めています。幻の古代「富田郡」と大衡村は関連があるのでしょうか。

大衡字亀岡にある『亀岡遺跡』は、この疑問を解く遺跡の1つと考えられています。『亀岡遺跡』は昭和52年に東北学院大学考古学研究所によって調査された際に命



▲亀岡遺跡発掘調査(昭和52年)

名された遺跡で、奈良時代後半から平安時代初期のものが多く出土しています。

蝦夷の侵入を防ぐ大型の土塁や高床倉などの遺構の配置は、辺が約500メートルの正方形の区画となっています。このような配置の区画は公的施設跡に多く、土塁跡の形状などは古代城柵の体裁をとった官衙(役所)施設に近似しています。

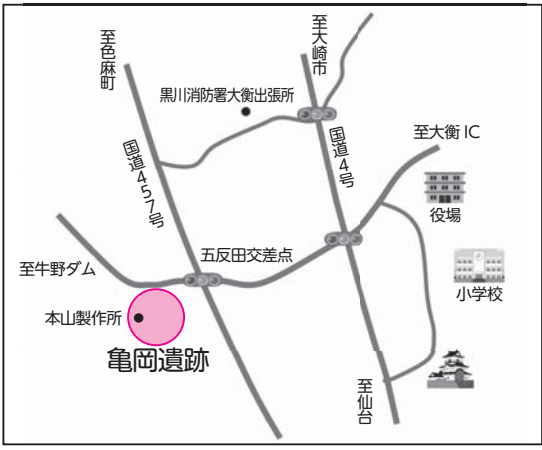
さらに、出土遺物は、律令古代の軍装品携行分銅型砥石、金銅製袴帯金具片、円面硯の破片等で、他の古代官衙跡の出土品と同様のものです。古代には一般農民が使用

用しない円面硯の出土は、官衙以外には見られません。また、奈良時代後半から平安時代初期の官衙風遺物が多く出土する郡衙跡では、現在、他に見られないことから、『亀岡遺跡』が「幻の古代富田郡」郡衙跡と考えられています。

(参考 大衡村誌)

※郡衙 律令時代の郡をおさめるための役所

※円面硯 円形の硯



▲亀岡遺跡の位置(大衡字亀岡)

◆問い合わせ先
総務課村誌編纂室
☎345-5111